

水害対策調査特別委員会

令和3年1月22日（金）

午前9時59分～午前11時30分

議会大会議室

【出席委員】重松 徹委員長、松永憲明副委員長、西岡真一委員、久米勝也委員、
川副龍之介委員、山口弘展委員、武藤恭博委員、千綿正明委員、
中野茂康委員、川崎直幸委員、池田正弘委員

【欠席委員】なし

【委員外議員】

【執行部出席者】池田総務部長
碓農林水産部長
干潟建設部長
ほか、関係職員

【案 件】

・防災対策事業（大雨被害）について

○重松委員長

皆さんおはようございます。

定刻前ですけれども、皆さんおそろいでございますので始めたいと思います。

本日は第8回目の水害対策調査特別委員会ですが、今日は防災対策事業についての調査ということで、これが最終調査事項になります。

今後の進め方としましては、今日の委員会終了後に委員間協議を行いまして、今後の進め方について協議をしたいと思っておりますので、最後までよろしく願いいたしたいと思っております。

それでは早速でございますけれども、防災対策事業について、特に水害時の危険カ所の把握とか、情報の提供、伝達についてですね、今日は消防防災課のほうより説明お願いしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

◎防災対策事業（大雨被害）について 説明

○重松委員長

ありがとうございました。

ただいま、防災対策事業の説明がございました。これから質疑に移りたいと思っておりますけれども、なお、今日はですね、総務部、建設部、それから農林水産部の所管の部長もお見えでございます。今日はあくまでも防災対策事業の調査でございますけれども、質問の中で関係部署への質問があった場合のために出席いただいておりますので、どうぞよろしく願いいたしたいと思っております。

それでは、御質疑等があればお願いします。

○千綿委員

4 ページのですね、河川の水位や道路の浸水状況を確認するための監視カメラの設置 47 台とありますけれども、それと、5 ページの監視カメラの増設 5 基、それと次の 6 ページの監視カメラの整備についていいかっていうこと、多分これは前ページと一緒に思うんですが、これは市役所内では見れるんでしょうが、去年も言ったんですけども、結局市民が逃げ遅れて水害に遭うっていうことが多いので、なるべく動画とか視覚に訴えるような手段で市民に見れるようにするべきだという意見を去年言いましたけれども、その対応についてはどうなってるんですか。

例えば市役所だけでしか見えないのか、それとも、ライブカメラという形で市民がどこかにアクセスすれば見えるようになっているのか、その点についてお尋ねします。

○杉町消防防災課長

今御質問がありました、市で設置している監視カメラにつきましては、全部で 47 台ございます。

ただ、これはほとんどが例えば樋門の状況、操作の状況とかですね、その周囲の河川の水の状況とか、そういったものがほとんどでございまして、なかなか市民の方に、直接公開してもですね、樋門そのものを見てもどうかなというところもございます。

そういうこともございまして、現在そのうち 6 か所につきまして常時見れるように公開をしているところでございます。

そういった中でですね、これも公開してほしいとか、そういった御要望がございましたら公開は可能でございますので、それについては対応していきたいと考えております。

○千綿委員

すいません、多分要望とかがって出ないと思います。僕が言いたいのは、要するに視覚に訴えて、例えば水位がここまで上がってきてますよっていう危険性——実は前回あったんですよ、前回の水害のときに。うちは鍋島ですが、嘉瀬川まで見に行った人がいました。とある自治会の自治会さんが、行ったらダメって言ってもやっぱり行かれるんですよ。自分の目で確認するために。でも、そういったライブカメラで見れるようになれば、わざわざ危険をおかしてまで行かなくていいし、逃げ遅れた人も、今までこういう水がきたことが無かったからって言って、そのまま居て災害にあわれたということなので、やっぱり視覚に訴えるっていうことは、僕は大事だと思うんですね。

だから、そんなに予算がかからないのであれば、そこはやっぱり公開していくべきだと思いますよ。やっぱり住民は自分の近くはどうなってるかってやっぱり不安じゃないですか。そりゃ莫大なお金が掛かったら、それちょっとやっぱり抵抗あるでしょうけど、一応 5 カ所の増設予定ってあるじゃないですか、その場所はどんななってるんですか。公開予定があるのかどうか。

○杉町消防防災課長

今回、増設する分につきましては、同じように、樋門操作等の関係が主でございますので、公開については今後検討していくようにしております。決定はしておりません。

○千綿委員

だから、検討って前向きに検討しないとですよ。さっき言ったように、要は市民が見られたほうが得じゃないですか。整備をするって決めて、後でそれをつながなきゃいけないとまたお金はかかったりするわけですよ。つけるときにそのシステムをちゃんと入れとけば済むわけでしょう。いつでもそういう対応できるんじゃないですか。だからそこを言ってるわけですよ。そういうことをやっぱりやることによって市民への危険度の啓発になるわけですよ。見られる人がいればそこを見て、やっぱりよそ近くだったらうちの近くはこうなってるよってというのがわかるんで、だからそういうことをやっていかないといけないよってというのは、多分僕去年の3月ぐらいに言ったと思うんですけども。

そこはぜひですね、前向きに公開する方向で検討していただきたいなど。そんなにお金がかかるということでなければ、それはぜひ検討していただきたいと思います。

2点目に行きます。9ページの自主防災組織の結成率なんですけど、10万1,132世帯のうち7万8,689世帯なんですけど、ここ校区が全部世帯数に入ってますよね。でも、やっぱり基本は単位自治体の防災組織ができてる率が基本だと思うんですね。実際、うちの校区でも防災訓練をやったりしていますが、ほとんど出てこられるのは、自治会長さんとその3役ぐらいなんです。市民が出てくることはほとんどない。それを考えたときに、やっぱり自主防災組織を単位自治会組織でつくっていただくことが本来の市民の防災活動の普及になるのかなと思うんですけど、そこら辺の見解はどう思われてますか。

○杉町消防防災課長

自主防災組織を結成する枠組みですね、校区でつくるよりも単位自治会のほうがいいのではないかという御質問でございます。

確かにですね、実際に災害時に動く場合に、単位自治会のほうがまだ顔が見える関係とかですかね、そういったこともございますので、実際には、やはり単位のほうでつくって広げていったほうが、有効性が高いというふうに考えております。

そういった意味で、もちろん校区がだめということではございませんけれども、広域的に対応するもの、また、単位のそういう狭い範囲ですね、近くの人を助けるとか、そういった意味で対応するものいろいろございますので、その両面がございますから、校区ばかりではなく、単位のほうもですね、同じように結成に向けた啓発を行っていきたいと思っております。

○千綿委員

ちなみに単位対自治会の自主防災組織の結成率の推移を資料でいただければ非常に助かるんですけど。というのは、ここにも議員さんいらっしゃって自分の校区もあるわけですよ。

よ。私も実際、鍋島校区の中でも言ってますが増えてないですよ。5のままから変わらないわけですよ。2,3年前から作らなきゃいけないよっていう話はしてますが、やっぱりそれをですね、全然増えてなかったら、各議員さんにも、自分の校区はもうちょっとやっぱり進めてくれみたいな依頼もやっていかなきゃいけないと思うんですね。

だからその推移、自治会数の推移、自主防災組織を結成した数、そこも資料として出していただければ助かるなと思うんですよ。

○杉町消防防災課長

分かりました。そしたら、資料は後日でよろしいでしょうか。

○重松委員長

じゃ、各委員に配付をお願いします。

○堤河川砂防課長

先ほどの映像の公開とは若干違いますけれども、河川砂防課内で浸水標尺ということで、路上の浸水しやすい箇所に設置しております。そのうち、今現在が10カ所テレメーター化をしていると。市庁舎内で水位を確認できると。また、今現在、新たに9月補正で追加でテレメーター化しているような状況でございます。その数値について、映像にはならないかと思うんですけれども、どういう状況にあるのか、市内の内水の状況について市民の皆様にお知らせできるようなシステムづくりを検討しているところでございます。早急にはできませんが、来年度ぐらいまでにめどを立てていければなというふうには考えているところです。

○千綿委員

農林水産部でも水位メーターとかつけてますよね、計画的に。経済産業委員会でも言ったんですが、それはやっぱりC I Oがある程度でそういった方向性を持ってないと、付けました、で、後からそれを映像で流します、でまたお金がかかるというふうになるので。要するに、I C Tの場合は到達点を決めて発注しないと、後でまた新たな設備がかかるわけですよ。だから、つけるときはそれを前提としてやっていかないと、結局また後からお金かかっちゃう。だからそこをね、皆さん考えておかないと、今の予算見てると、I C Tの予算ってかなり高額ですよ。システム改修に1,000万円かかりますって簡単に言われてますけど、なんて言うんですかね、今多分建設費用よりI C Tの変更費用とかが高いんじゃないですか。そこはやっぱりよくよく考えとってもらわないと、後でまたお金がかかっちゃうってということになりますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

○千綿委員

用排水対策の特別委員会に私もいましたから、去年3月も言ったと思うんですが、戸上電気のも5回ぐらい不調でしょう。あそこを見た人は、ここを1番先にしないとけなんじゃないのと思うんじゃないかと思うんですね。

5回も不調になった経緯をもし今説明できるのであれば説明していただきたい。で、今

後どうしていくのかっていう部分を、ちゃんと説明してもらわないと。新聞にも載りましたよね。そこら辺はどうなんですか。

○堤河川砂防課長

前回の定例会の一般質問の中でも取り上げられております。確かに5回、昨年度3度、それと今年度2度の不調になっております。その中で、建設業者のほうに、いろんな形で聞き取りも併せてさせていただいております。

現場的に非常に厳しいということで、なかなか目に見えないお金、積算にあらわれないような非常に多額のお金がかかるということで、通常の国土交通省の基準にのった形での積算だと、なかなか見積もりをとると、実行予算としてなかなか合わないという意見は多くいただいております。

そういった中で、ぎりぎりまで増額というか、基準のとり方とか、あと施工方法も、分割の回数を減らしたりできないかとかという検討を昨年度してきたんですけども、やっぱり、なかなか交通量も多い場所ですので、施工方法については、ちょっと現状のままいかざるをえない。ただその積算の取り方で、国の基準を満たす範囲で、なるだけ金額を上げてですね、上げてっていうか見れる範囲ではしてまいりました。ただそれでも、やっぱり、応札者がいらっしやらなかったような状況でしたので、改めて、今度はちょっと見積もりをとってですね、実際の価格というか、実施工が可能な価格との差を埋める形ですね、聞き取りを再度行いながら、来年度早々に発注をかける予定でございます。

○千綿委員

昨年、多分2月か3月の特別委員会の中でも言ったんですが、樋門の連携も言ったですよ。佐賀市が直接樋門管理をしているところはいいんですよ。県や国っていう部分は多分連携はとれてると思います。以前から私言ってるように、個人で樋門操作を委託されている方たちの連携を強化していくべきだっていうのは言ったと思うんですが、こういう中であんまり変えてありませんよね、実際は。でも、そういうのもやっぱりやっているっていう答弁もあったんですが、なかなかそこがこういうのには表れてこない。

兵庫地区は、この間も言ったように、連携を全部とってあるんですよ。福井久男議員とか一生懸命頑張ってますね、とられてる。これはすばらしいなと私は正直思います。だからそこをもっと真剣に考えていただかないと。結局、水害が起こる前に水がはけてないと、要するに浸水してしまうわけじゃないですか。

前に私一般質問をしたように、そこをもうちょっとですよ、連携の訓練なんか、例えば、来年度になるかもしれないんですけども、5月とか6月の出水期前、そして出水あった後に、例えば、個人で樋門管理しているところは何時ごろ開けられたのかっていうアンケート調査なんかとっていただかないと。そこで初めて分かるわけじゃないですか、開けられたのか、開けられてないのか。何時ごろ開けたのかっていうことがわかってくるわけだから、連携がとれてるとれてないっていうのは、それをやってみないと分からないわけです。

よ。実際把握されてないわけじゃないですか。開けてくださいとお願いはしてますということしかないわけでしょう。だから、そこをちゃんと検証する部分を持つとかなないと僕はだめだと思うんですね。そこら辺どうですか。

○堤河川砂防課長

主要な樋門ですね、河川砂防課、農林の樋門などいろんな樋門がございます。大雨洪水注意報が出されるあとの場合と、今後出される見込みが大きくある場合は、当然早目に情報が来て、我々も動きますので、そのたびに主要な樋門のほうについては、連絡を差し上げております。兵庫地区も含めてですね。

そういった中で、当然、アンケートにはならないかと思うんですけども、水防体制の中でですね、その状況把握っていうのは、我々もパトロールでしていきますし、当然、電話で確認したり、そういう確認は現在も行っているところですので、それをもう少し細かく進めていきたいと思っております。

やはりこれだけ雨が激甚化して、既存の施設っていうのが、レベルアップは早急にはできない話になりますので、やはり既存の施設を最大限に生かすというのがやっぱりやはり1番大事なことなんじゃないかと思っておりますので、そのあたりの強化っていうのは進めていきたいと思っております。

○重松委員長

今、千綿委員から質問あった樋門管理者の連携ですね、そういった問題、それと新村愛敬雨水幹線の改良工事ですね、2年位遅れてるということで、これも所管の上下水道が今日見えておりませんので、再度ですね、委員間協議をして、もう1回呼ぼうかとなれば、それについて再調査を行いたいと思いますので、後日また改めて呼びたいと思いますのでよろしく願いしておきます。

質問が出ました特に樋門の監視カメラ、ライブカメラの設置ですね、特に市民への視覚に訴えたほうがいいんじゃないかということで、これも重要な問題でございますので、これに関連したことでですね、皆さんたちのほうから何か御質問ないでしょうか。

○川副委員

消防団の活動の中でですね、佐賀市の防災情報ということで、監視カメラの映像をホームページから多分見ることができてですよ、例えばすいません地元の話で言いますけど、西与賀の場合は1番浸水が多い平松の老人センター、あそこに監視カメラがあって、消防団であそこを見ながらですね、水位の情報を得てるわけですので、先ほどの答弁の中で何か6か所とか何とか言われましたけど、多分47カ所すべて、ライブ配信ができるような状態じゃないですかね。

それともう一つ、またこれも西与賀のほうで言いますけど、本庄江川、これは県のほうが管理しておりますけど、ここにも監視カメラがあってですね、県のほうのホームページで多分見ることができます。そういった中で、一つ問題提起っていうか、昼間はですね、

きちんとした映像が出ますけど、夜間がわかりにくいです。もしよかったらちょっとカメラの性能等になりますけど、夜間でもきちんと水位関係が把握できるようにならないのか、そこら辺私ずっと監視カメラを見ながら思いましたので、そこら辺何かあれば、答弁をお願いします。

○杉町消防防災課長

今、平松のほうの監視カメラが見れるようになっているということでございましたけれども、うちのほうではですね、佐賀市のほうでは、大雨注意報、こういったものが出て水防体制をとった以降はですね、佐賀市で設置している、このカメラすべてについて、一斉に全部公開をするようにしております。

これについては……（発言する者あり）

○重松委員長

最初、6か所と言われましたけども。

○杉町消防防災課長

すいません。すべてといたしましたけど、21か所追加ですね。6か所プラス21か所を追加して公開するようしております。

それから、ちょっと夜間が見づらいというようなことでございましたけれども、これについてはですね、機器としては、サーチライトでより見やすいようになっていうふうな機能としてはございます。しかし、その辺になりますと、さらに高機能なカメラをとということになりますと、なかなか経費面も上がってきますので、その辺の費用対効果ということも考えながら、今後の設置とか改良については考えていきたいと思っております。

○川副委員

大雨等の警戒が必要になった場合に、きちんとしたライブ配信ができるということですので、やはりそこは、市民の方にも十分広報を徹底して、先ほど千綿委員が言われたように、人が河川のほうに出ないで済むような、きちんとした確認がとれればと思いますのでよろしくをお願いします。

○重松委員長

特に大雨の際は、深夜に水位が上がってきますので、本当に寝てるときにいっぺんに襲ってきますので、やはりそういったライブ発信を徹底した、特にサーチライト、まあ予算的な問題もありますけども、設置をしてですね、24時間体制でできるように、ぜひお願いしたいと思います。

ほかに、関連でないでしょうか。

○松永憲明副委員長

今の監視カメラの件なんですけども、この6か所と21か所、場所をきちっと提示していただけないか。資料としてお願いしたいんですけども。

それと、ライブ配信とおっしゃいますけど、やっぱり多くの市民の皆さん方に、これを

見てもらえるような、仕組みっていうのが必要だと思うんですね。パソコンだとかなんかじゃないとしか見れないとかじゃ困るわけですよ。ですから例えば、ぶんぶんテレビと佐賀市が提携されてるっていうことであれば、ぶんぶんテレビの中でもしっかり見れるとか、いろんなやり方があると思うんですけど、どういう形でそれを市民の皆さんに見れるような形をされてるわけですかね。そこもあわせてお願いします。

○消防防災課職員

まず、資料の提供につきましては、すぐお出しできる状況でありますので、この後お出ししたいと思います。

また、ぶんぶんテレビにつきましても、同じように、通常時6か所、水防時プラス21か所の公開については、同じようにぶんぶんテレビでも公開をしているところでございます。以上です。

○重松委員長

農林水産部でICTの塩分測定器の設置事業があるじゃないですか、10か所でしたかね。今度9月の補正予算がついて、20何か所でしたかね。最終的には29か所ぐらいまでいくということで、これにそういった監視カメラはつけることはできないかと、これは千綿委員が経済産業のほうで質問されてましたけども、こういったことも可能なのかですね、そこら辺ちょっと農林水産をお願いします。

○礎農林水産部長

今言われるように、うちのほうで塩分測定の監視カメラをつけてます。チャンネル数を増やして、例えば水位であったり、その画像あたりも一緒に見れるようにしたいんですけども、すればするほど高価になります。今現在つけているものが、大体1基10万円(11ページで訂正)ほどの機械なんですね。画像となればそこに電気を通さなければいけません。今はですね、センサーに使う電気については全部電池ですね、単一の電池8個を使ってのバッテリーですので、ここも最初はやっぱりなるべく安くて効果が上がるものということで、塩分に特化した事業で進めさせてもらってるので、そこはですね、最終的に判断したのが単3で、維持費、経費がかからないものということで進めております。金さえ出せば今言われるような監視カメラであったり、水位系なんかもどンドンつけることは可能です。ですので、今後、現状も踏まえて、ベンダーあたりと話をしたいとは思ってます。

現状としてはですね、今そういったところで、今回、追加の分もそれでつけさせてもらっている状況ではございます。

○重松委員

全部つけるわけにはいけませんので、要所要所、ポイントポイントでですね、設置していただければなというふうに思っております。

○川副委員

資料の中で、6か所は遠隔操作で樋門の開閉が可能ということで、この場所を教えてください。

それと、今後遠隔操作できる樋門の数を増やしていくのか。そこら辺の計画があればお願いします。

○堤河川砂防課長

場所につきましては、上飯盛の樋門ですね、そこが一つ。

○重松委員長

すいません、そうしたら資料でいいですか。資料はすぐできますか、どうなんですか。

○消防防災課職員

先ほどのカメラの一覧表とあわせて、お出ししたいと思います。

○堤河川砂防課長

それと追加の分でございますけれども、それから追加の分についても、上下水道局の雨水幹線についてですね、今現在、追加の工事を行っておりますので、その分を地図に落とした分を準備したいと思います。

○千綿委員

3ページになります。ちょっとささいなことなんですけど。今さがんメールで3万4,000人の登録があつてますよね。ラインが5,000名ということで、これはしょうがないと思うんですね。市民が危機感を感じないと登録されないと思うのが当然だし。ただ、僕がお願いしたいのは、例えば緊急災害のときにやらなきゃいけないのは、拡散をお願いしますと、例えば、さがんメールも一緒に、皆さんのほかの方にも拡散をお願いしますという言葉を書いて送ったほうがほかの方も多分拡散すると思うんですよ、いろいろSNS使って。佐賀市はさがんメールとラインしか使ってないじゃないですか。他にインスタグラムだったりフェイスブックもあるので、拡散のお願いをしていけば、これがぼんと増えるわけですよ、今LINEが5,000人であっても拡散をお願いしますというと、リツイートしたりとか、いろんなやり方で登録されてる方が広げてくれるっていうことも考えられますので、それをやっていただきたいというのが一つと、今ヤフーの防災情報がありますよね。これ、連携とれてるんですかね、多分ヤフーが今流してくれてますよね。だからヤフーに流せば、登録してるところはヤフーの防災情報が入ってきますので、そういったところと連携するっていうのも一つの手だと思うので、告知はなるべく広範囲にやっていくべきだと思うんですが、ヤフーは自治体との連携は多分そんなにお金かかってなかったと私記憶してるんですが。そこの連携をやっていくっていうことが必要ではないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○消防防災課大木係長

先ほど御提案いただきました拡散依頼につきましては鋭意検討したいと思います。いろんな方法、私ども消防防災課がやっているもの以外でも、秘書課がやっているものもござ

いますので、そういったものを活用して、より多くの方に知っていただくということでやっていきたいと思っております。

ヤフーの連携につきましても、いろんな媒体を使ってやっていく中の一つであると思っておりますので、今後そのヤフーだけじゃなくてもですね、いろんな防災アプリあると思います。そういったところとの連携というのは今後も進めていきたいというふうに考えております。

○西岡真一委員

資料 10 ページの⑤課題の今後の展開、自主防災組織の件ですね、活動が停滞している組織というのは私にとっては耳の痛い御指摘ですけれども、なかなかですね。避難の運営に対する自主防災組織の参画、活動の停滞ということもありますけれども、意外と自主防災組織は、通常ベースで行政との接点が割と少ないんです。という意見をよく聞きます。避難準備情報とかですね、避難勧告あるいは特別警戒警報とか出たときにも、ことさらに、自主防災組織に対する通知とか何かの協力要請というのがないと。ほかの団体、たしか民生委員協議会なんかには要請があつてるのに、我々には何もないのかっていうね。ちょっとむしろそういう意識の高い市民もいらっしゃるわけなんです。自主防災組織との連携について検討を行うということなんですけれども、今からの検討でしょうけれど、どのような協力要請等があるのかというのが一つと、もう一つは、先ほどから指摘があつてますけれども、ハザードマップの活用の仕方とかさがんメールの登録とか、こういうのを自主防災組織から通常活動として市民に働きかけてもいいんじゃないのかなと、効果が上がるんじゃないかと思ひますし、自主防災組織のモチベーションにもつながっていくと思ひますので、そういうところもあわせて検討いただければと思ひます。これは要望ですよ。ですから、今後どのような協力要請等が考えられるのか。

それと、何で今までそういうことを考えなかったんですかということをちょっと聞きたいんですけれども。これまでちょっと遠慮されてたのかどうなのかという、そのあたりお伺ひします。

○杉町消防防災課長

自主防災組織との連携という面ですけれども、実際にですね、例えば、大地震が起きたとき、公的機関がそこに救助に行くとか、救援に行くとかですね、支援物資を送るとかということが、道路が寸断されるとか、こういった場合にはできないことが想定されます。そういったときにやはり、地域で、そういう防災を主になつて行われている自主防災組織というものが、非常に重要になってくると思ひます。そういう意味では最も必要なのは、やはり今言ったような地震などの大規模災害が起きた場合のですね、地域でのそういう助け合い的なものになりますし、避難場運営とかそういったものが出てきます。そういうときに、避難場運営にかかわる職員っていうのも、現在、市の職員などが行つていますが、避難所が数多くなつて規模も大きく大きくなつてきますと、なかなか職員だけ

では手が足りないというふうな場合も出てきますので、そういった場合に、やはり地域の方の力を借りるといことが非常に重要になってきます。そういった場合のために、今後は自主防災組織と連携を図っていく必要があるというふうに思っております。

あとは、地域のハザードマップをつくることっていうのも、地域の危険箇所の把握とかそういった意味では有効だと考えております。これについては、地域でそういう取り組みをされる場合は、うちのほうから出前講座といったもので支援を行ったりしているところでございます。また、武雄河川事務所とか、こういったところも、向こうの主催ではございますけれども、佐賀市内の地域におきましてそういうマップづくりを呼びかけまして、市も一緒に参画しまして、お手伝いをしているというふうなところも取り組みとしてやっております。

○西岡真一委員

要するに大規模災害とかですね、ここでいう自主防災組織との連携っていうと大規模災害とかそういうのが想定されるということですから、ちょっと私が希望しておりますのもう少し日常レベルでの活動ですね、自主防災組織を言い方が悪いかもしれないけど消防防災課というか市として活用するという形で利用するというか、そういうふうなものをちょっと考えていってもらべきじゃないのかなというのが一つです。

そういうのを今まで考えて来てなかったということかと思えますけれどもですね。これはですから要望です。もう少し自主防災組織というものを利活用するというかですね、市としても。ちょっと言い方悪いかもしれないですけども、そういうのをちょっと検討いただきたいと考えております。

○碓農林水産部長

すいません、先ほど私が塩分測定器の件で本体自体は10万円と申しましたけれども、間違えています。本体自体が20万円なので、訂正させていただきます。

すいません、申しわけございませんでした。

○重松委員長

皆さん何かほかないですか。

ほかにないようでしたら、これで、防災対策事業についての調査を終了いたしたいと思えます。

なお、この後、最終報告に向けた再調査事項について委員間協議を行いますので、その節にもう1回、防災対策について聞きたいというカ所があればですね、また再度呼びたいと思えますので、それでは、これもちまして防災対策事業の調査を終了いたしたいと思えます。

執行部の皆さんどうもありがとうございました。

ちょっと休憩しましょうか。では11時15分から委員間討議を行いますので、十分程度休憩したいと思います。

◎午前11時3分～午前11時12分 休憩

◎最終報告に向けた再調査案件抽出に関する委員間協議

今皆さんから出された件も含め、正副委員長で再調査事項素案をつくりますので、事前に皆さんたちにメールでお送りします。

次の委員会は2月の中旬ぐらいを考えていますので、その前に素案をお送りしますので、それでよろしいでしょうか。

そしたら後日、日時等についてはお知らせいたします。

それでは、これで第8回の水害対策調査特別委員会を終了いたします。

長時間お疲れさまでした。